

IFS-GCORE 海外派遣プログラム 体験記

氏名	平 和佳菜
所属/学年	大学院工学研究科 機械機能創成専攻 高奈研究室
指導教員	高奈 秀匡 教授
研究課題	銀ナノ粒子担字型高機能セルロース単繊維創製に関する研究
派遣期間	2023年9月15日～2023年11月3日
派遣機関	University of Washington
受入教員	Prof. Anthony B. Dichiara

2023年9月15日から11月3日までの期間、アメリカ合衆国のシアトルにある University of Washington にて国際インターンシップを行いました。

森と湖に抱かれる美しい街・シアトルは「エメラルド・シティ」として知られています。その名の通り、夏は低湿度でキャンプや登山、オープンシアターなどのアウトドアに最適で、冬はほとんど雪が降らず、年間を通して過ごしやすい都市です。また、アマゾンやグーグル、マイクロソフトの本社があり、公共交通機関も発達しています。一方で、コロナ禍以降の治安は悪化しており、夜は外出しない、人気のないところに近づかないなど、細心の注意が必要でした。

今回の滞在では、Anthony B. Dichiara 准教授のグループで、銀ナノ粒子を担持した高機能セルロース単繊維に関する研究を行いました。本研究では抗菌性・導電率を有する高強度・高弾性銀ナノ粒子担持型セルロースナノファイバーを創製し、材料特性を明らかにすることを目的としました。派遣先の研究室は、ナノ材料評価において豊富な実績を有しており、世界最先端の計測設備が整っているとともに、計測に関する多くのノウハウがありました。今回の滞在により、創製繊維のナノ構造を明らかにしました。

7週間という短い期間でしたが、アメリカの大学における研究活動を見るだけでなく、参加することができ、今後の自身の研究に生かせる良い機会となりました。また、現地の学生との交流を通じて彼らの研究への真摯な姿勢からも多くの学びを得ることができました。英語圏での生活は初めての経験でしたが、大学の学生だけではなく、街で合う人たちもとても親切でほとんど不自由のない生活を送ることができ、研究活動に打ち込むことができました。滞在期間がハロウィンの時期ということもあり、アメリカの文化を直に体験することもできました。

このような貴重な機会を与えてくださった IFS-GCORE の先生方、事務局の皆様、指導教官である高奈秀匡教授、研究および慣れない環境でのサポートをしていただいた Anthony B. Dichiara 准教授、University of Washington の皆様をはじめとした本インターンシップの関係者の方々に深く感謝いたします。



アメフト観戦!



University of Washington



パンプキンパッチ